



呉トピックス



泥んこになりながら 楽しく田植え

呉市立三坂地小学校5年生が同市広町田地区で、呉市立和庄小学校5年生が同市郷原で田植えの体験をしました。

全員が田んぼに1列に並び、地元の生産者・呉市職員・JA職員らの指導のもと、水稻苗を植え付けました。

泥だらけになりながら、「泥の感触



▲三坂地小学校児童たち



▲和庄小学校児童たち

が気持ち良かった「秋に収穫したお米を食べるのが楽しみ」と笑顔で話しました。

今後は、10月に稲刈りの体験も予定しています。



郷原産ニンニクの収穫体験 呉市立郷原小学校6年生



▲ニンニク収穫

呉市立郷原小学校の6年生は、同市郷原町の藤沖学さんが提供する畑でニンニク栽培を体験しています。

同小学校は総合的な学習の時間を利用して郷原産ニンニクの調査や栽培に取り組み、農業の楽しさや魅力を伝えようとJA職員や藤沖さんから生産者も協力しています。

昨秋にニンニクを植え付け、今年5月初旬にニンニクの茎の中心から伸びた花芽をひとつひとつ手折り、食用部分へ栄養を集中させるために重要な「芽かき」作業を体験しました。

5月12日にはニンニク5000株を収穫しました。7月には郷原小学校オリジナル「おうさまにく」としてJA郷原支店にて販売体験も行ないます。



広こども祭に参加 JAをPR



▲みかんジュースの試飲、販売は来場者に人気でした

JA広島支店・広島支店・呉アグリセンターはJA共済連広島と協力して5月11日に「第52回広こども祭」に

参加。JA共済の地域貢献活動の一環として、広公園多目的広場でJAのみかんジュースの試飲・販売をして、JAをPRしました。

広地区の子ども達は朝10時からとくふう幼稚園を出発し、広公園まで防犯交通安全パレード。公園にはパトカーなどの「働く車コーナー」、「チャレンジコーナー」やキッチンカーが並び、JAブースも出店。当日は大勢の来場者と様々な催しで賑わいました。

農業のために 地域のために 明日のために

JA共済の地域貢献活動

©2017 JA-KYOSAI



畑で芋づるの植え付け

呉市立天応学園1・2年生44人は6月6日、同市天応西条の西村健二さんが管理する畑で、鳴門金時芋の200本を植え付けました。

天応学園では開校前、敷地内で芋づくりを行なってきましたが、豪雨災害により天応小学校の敷地内に呉市立天応中学校の移転にもなう校舎の建設により、芋づくりを行なっていたスペースが無くなってしまいました。児童たちに野菜作り・農業の体験をさせてやりたいと学校が地域の自治会等に相談したところ、西村さんなら適任ではないかと今回今回の農業体験となりました。



▲芋づるを植える児童

2年生は今後も生育状況の観察を行ない、秋には1年生とともに収穫を行ないます。

植え付けを体験した児童は、「土に埋めるのが難しかった」、「こんなに細い苗から大きな芋ができるなんて信じられない。秋に掘るのが楽しみ」と話しました。



なるほど え〜のう! 営農情報

落葉果樹

イチジク

▽新梢管理

摘芯作業の目的は、枝の伸長を強制的に止めることで、果実へ養分を送り込みやすくするためです。

摘芯位置は、春から伸びた新梢の葉10〜12枚程度の位置となります。

摘芯をすると、その枝の節から副梢が発生します。そのまま放置していると着色や果実肥大に影響をおよぼすため、副梢は除去しましょう。先端から発生する副梢のみ葉が2〜3芽で摘芯します。

樹勢の強い場合は、除去後も副梢

が再発生しますが、その都度除去してください。

▽アイノキクイムシ対策

アイノキクイムシの被害を受けると、樹勢の低下や株枯病を引き起こします。7月上旬にガットサイドSを太枝に塗布し未然に被害をくい止めましょう。

カキ

▽摘果

先月は粗もぎ摘果する時期でしたが、7月からは仕上げ摘果の開始時期となります。

摘果をすることで、果実肥大が促されます。

葉果比（果実1個に対して樹全体の葉が何枚必要かを表す比率）は、実が着いていない枝の葉も含め20〜25葉に1果とします。

優先的に残す果実はヘタが大きい果実、日焼けを受けにくい位置（下向き）の果実、傷の少ない果実などです。
欲に負けず、思いっきり摘果しましょう。

モモ

▽着色管理

全体に緑色が抜けて、縫合線と果梗部に緑が残る程度の方が除袋時期となります。果実の重さで枝が垂れ下がっている場合は果実に光を当て

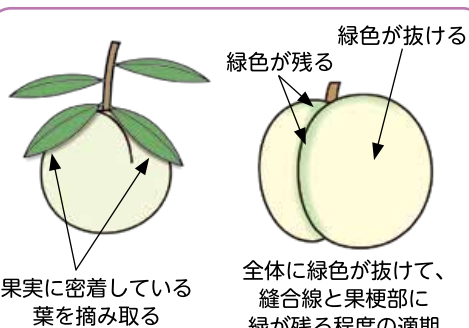
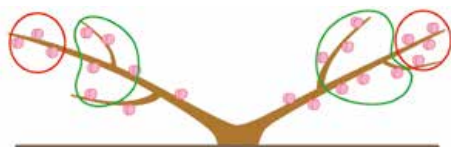


図1 モモの除袋時期の目安

図2 モモの摘葉



モモは主幹から遠い位置から成熟する傾向にあります。

- 収穫が早い部分
- 次に収穫が早い部分

図 モモの収穫時期

▽収穫

収穫はなるべく明け方の涼しい時間帯に行ないます。収穫時期が早すぎると食味が悪くなるので注意が必要です。

収穫はなるべく明け方の涼しい時間帯に行ないます。収穫時期が早すぎると食味が悪くなるので注意が必要です。

ブドウ

▽夏場の枝梢管理

枝の混み具合を見て、1節に2芽発生している芽は大きい方を残して芽かきをします。芽が伸びきった時点で枝の混み具合をみながら枝の方向が悪いものや、重なりあった枝等を除きます。ツルが伸びてきたら棚に誘引します。誘引する際は基部から折れないように片手で基部を持ちながら枝をねじるように誘引します。残す枝の本数は1坪（3.3㎡）あたり1新梢15葉くらいとして、15〜16本くらいが適当です。巻きひげはすべて切除します。

▽施肥

ブドウはツルの伸びを抑えるため、夏場の施肥は控え、9月中旬以降から施用しましょう。

■キウイフルーツ

▽摘果

6月中に仕上げ摘果が終了しなかった場合は、早めに摘果を終了させましょう。

残す果実数は、1㎡あたり20～25果程度とします。

結実している枝の中で基部に近い果実や先端の果実を優先に摘除しましょう。

▽夏場の枝梢管理

棚下に木漏れ日が差し込む程度の明るさを保つ程度に、不要な枝は常時かき取りましょう。

■一言

梅雨明け後に無降雨の日が続く場合は積極的にかん水を行ないましょう。

水源が確保できない場合は、イチジク・ブドウなど1枚あたりの葉面積が大きい品目から順にかん水を行ないましょう。

家庭菜園

現在は、夏野菜の収穫が最盛期を迎えています。トマト、ナス、キュウリなど、毎日のように実をつけてくれるうれしい季節です。誘引や整枝、追肥などを適切に行なって、おいしい夏野菜をたくさん収穫しましょう。ここではトマト・ナス・キュウリの栽培管理のポイントをまとめました。

■トマト

・着果不良（実がつかない）

高温（30℃以上）や夜温が高いと、花粉の活性が低下し着果しにくくなる。

↓朝の時間帯に人工授粉を行なうと効果的。

※トマトトーンの使用方…20℃以上の時は100倍に、20℃以下の時は50倍に希釈し、開花前3日～開花後3日位（1花房で3～5花位開花した時期）1花房につき1回散布。（ミニトマトは1花につき1回散布）

・尻ぐされ症（果実のお尻が黒くなる）

カルシウム不足や水分の不安定さが原因。

↓灌水は一定に保ち、カルシウムの葉面散布を行なう。

・摘葉

・下葉や古葉をそのままにすると病気の原因になるため、適宜取り除く。

・追肥

・最初の果房が着果したら、2～3週間ごとに追肥（化成肥料・液肥）を少量ずつ施す。

■キュウリ

・高温期の課題と対策

・高温・乾燥で果実の奇形・黄化が発生しやすい。

↓遮光資材、敷きわらで地温を抑制。

↓1日2回（朝・夕）の水やり

・摘芯と収穫

・摘芯…本葉20枚程度で芯を止めて側枝を利用。

・整枝…風通しと日照を確保するため、不要な下葉や込み合った枝を間引く。

・長さ20cm程度で収穫。早めの収穫が株疲れ防止に◎。

・追肥

・週1回の液肥施用が効果的。

■ナス

・高温期の課題と対策

・高温で果実が硬くなったり、色が悪く小ぶりになりやすい。
↓遮光ネットや適度な整枝で樹勢を調整。

・収穫が遅れると果実が木質化し、次の果実がつきにくくなるため、適宜収穫を心がける。

・整枝・更新剪定

・3～4本仕立てが基本で下葉・古葉の除去も重要。

・7月末～8月初旬に更新剪定（枝を半分程度まで切り戻し）すると、9月以降の秋ナスに切り替えられる。

・追肥

・10日に1回ほど、追肥する
・剪定後はしっかり灌水と追肥を行ない、再生を促進。

夏野菜の多くは摘芯・整枝・追肥によって終了と品質を維持できます。日射が強い日は遮光ネット（遮光率20～30％）を使用することもおすすめです。

また、病害虫（ハダニ、アブラムシ、蝶目害虫等）への注意も重要で、定期的な防除を行なうことで、長期収穫に結びつきます。

ときめき ♡ 女性部通信

令和7年度 JA女性組織活動体験発表会 高田支部 二藤妙子支部長が出場

6月9日、広島市中区大手町のJAビルで令和7年度JA女性組織活動体験発表会が開催され、高田支部長の二藤妙子さんが出場しました。

この発表会は、JA女性組織メンバーの創意工夫ある活動を組織全体に普及し、活動の活発化と組織の拡充強化を図る目的で開催され、県内JAから8人が出場しました。

二藤さんは「復活!!高田支部」と題して、3月に廃部となった同支部を新支部長として、JAや地域と力を合わせ再び立ち上げてきた活動を発表しました。

また、同支部は部員一人ひと声かけ運動【新たに増設・復活の部】において表彰されました。



▲応援にかけつけた女性部の皆さんとJA職員



▲発表する二藤支部長

ふれあい農園利用者募集

小浜ふれあい農園で野菜や花作りを始めてみませんか。JA職員が相談をお受けいたしますので、初心者でも安心して始めていただけます。

募集要項

募集区画:37区画

場 所:広島県呉市広町小浜

面 積:1区画 16㎡(4m×4m)

利 用 料:1区画 年間3,000円

※年度途中の利用開始は利用料を月割計算させていただきます。

お問い合わせ:小浜ふれあい農園運営委員会

事務局 JA呉アグリセンター

呉市広町田1丁目9-39

TEL:0823-71-5155

